

セトレ マリーナびわ湖

滋賀県守山市水保町1380-1ヤンマーマリーナ内 TEL:077-585-1125 <http://www.hotelsetre-biwako.com/>

琵琶湖を代表するマリーナであるヤンマーマリーナ内に2013年9月、関西3店舗目となる「セトレ マリーナびわ湖」(客室14室・レストラン)がオープンしました。

滋賀県内でも珍しい、琵琶湖と直結する立地に恵まれた当ホテルでは、14室の全てお部屋はもちろん、館内どこにおいても、窓いっぱい広がる琵琶湖と比良の山の四季の移ろいがお楽しみ頂けます。

「自然との共生」をコンセプトに掲げ、館内においても季節の移ろいや自然の深い癒しを感じられるよう、建築には木、石、土などの自然素材を使用。館内の家具はワイズワイズ社に制作を依頼し、滋賀県の木を使ったオリジナル家具を設置しています。

建築デザインは、グッドデザイン賞の受賞経験もあり滋賀県立大学で教授も務める芦澤竜一氏が手掛け、かつての琵琶湖の自然湖岸をモチーフとしたナチュラルガーデンにおける環境再生型の敷地管理などが、注目を集めています。

ホテル内のイタリアンレストラン「ミア アルベルゴ」では、料理長自ら農家、漁師の元を訪ねて探し求めた厳選素材によるお料理を提供し、好評を博しています。

水と緑に身をゆだね、スロー&リクスな「過ごし」を楽しめる琵琶湖畔の小さなホテル



1.「地域」とともに

セトレがいちばん大切にしているコンセプトが「自然、琵琶湖との共生」「地域のみなさまとのつながり」です。窓いっぱいひろがる琵琶湖と比良の山の四季の移ろい、滋賀の森がはぐくむ木や土を活かした建設、琵琶湖をわたる風の音、地域の方に教えていただいた、ここでしか出会えない味。そんな豊かな「めぐりのち」を感じていただけたら幸いです。

2.自然の息吹が
感じられる建築

設計は芦澤竜一先生。自然の素材やエネルギーをとり入れ、建物の中においても、自然の息吹が感じられます。ホテル内の家具や壁に使われているのは、滋賀の森が育んだ木々。琵琶湖の3倍もの面積がありながら日々荒廃が進む森林に対し、私たちができることはわずかですが、少しでも「Mothre Lake」「Father Forest」に寄り添っていきたくと思っています。

3.「地産地消」を超えた
「ほんもの」の食材

14室だからこそ、単なる「地産地消」を超えた「ほんもの」をお客様に召し上がっていただきたい。だから生産の現場を訪ねることをモットーとしています。生産者の皆様と言葉を交わす中でふれるお人柄や熱い思い。そせて想像をうわまわる豊かな滋味。どんなラベルにも勝る「信頼」に裏打ちされた、最高の食材を最高の料理にかえて、皆様にお届けしてまいります。

4.風のゆらぎを
感じるSTAY

季節や天気のおつろいを告げるメッセンジャーである風。琵琶湖をわたる風を感じていただきたくて、客室には風を室内にとりいれられる杉の格子戸やハンモックを設置しています。夕暮れ時はルーフレットで夕涼み。また自慢のミュージックホールは、エオリアンハーブという楽器を模した、建物そのものを風が奏でる世界でも珍しい「楽器建築」です。

【セトレマリーナびわ湖 概要】

所在地: 滋賀県守山市水保町1380-1
ヤンマーマリーナ内
交通: 湖西線「堅田駅」から路線バス、
琵琶湖大橋線「琵琶湖大橋東詰」
規模: 地上3階
客室数: 14室
施設: レストラン、バンケットスペース、
ラウンジ、ギャラリー



【ホテルセトレについて】

株式会社ホロニックが運営する地域住民・地域社会のためのコミュニティホテル「SETRE(セトレ)」。「RESET+REVIVE」をコンセプトに、時代の文化の中で見失われてきた数々の宝物、地域に眠る「物語」を新たな「価値」に変えてお客様に届け人と人、人と地域の絆を結んでいきたい。そんな「コミュニティホテル」を目指しています。2005年神戸市垂水区に1号店「ホテルセトレ」をオープン。08年には国民年金宿舎をリノベーションし、2号店となる「セトレ ハイランドヴィラ姫路」を兵庫県姫路市にオープン。13年にはセトレグループ初となる新築で「セトレ マリーナびわ湖」を滋賀県守山市にオープン。ウェディングを事業の柱とし、現在はホテル4施設の経営及び運営とレストラン2店舗の運営を実施。